

茅野市美術館 八ヶ岳通信

■茅野市美術館

茅野市美術館 地域をみつめるプロジェクト《対話》

茅野市美術館では、平成20年度（2008年度）より「茅野市美術館 地域をみつめるプロジェクト」をスタートし、「篠原昭登展 八ヶ岳山麓に魅せられて」（平成20年度）、「向井潤吉展 風土をみつめる旅」（平成20年度）、「中尾彰一 津和野・東京・蓼科一展」（平成21年度）、「藤森照信展 謙訪の記憶とフジモリ建築」（平成22年度）、さらに各年度の収蔵作品展に加え、多彩なゲストを迎えてワークショップや講座を開催し、自然、言葉、素材、音、歴史など様々な切り口から地域をみつめ、地域の風景や日常の延長線上にある深く豊かな美の存在を数多く発見することができました。

平成23年度（2011年度）より茅野市美術館では、「茅野市美術館 地域をみつめるプロジェクト《対話》」をスタートしました。このプロジェクトでは、これまでの「地域をみつめる」視点を維持しながら、作品との対話、人の対話、自分との対話、そして地域との対話を試みています。これらの対話を通して、様々なコミュニケーションが生まれるはずです。様々な事業の中で、地域の魅力をより深く探求し、対話を進めることで、特色ある地域文化の創造・発展につなげたいと考えます。

第1期収蔵作品展「地域をみつめるー対話ー」では、10人の地域ゆかりの画家・飯田実雄、篠原昭登、高橋靖夫、田村一男、中尾彰、松樹路人、宮芳平、矢崎牧廣、矢島堯子、吉浦摩耶を特集、第2期収蔵作品展「対話ーレンズの向こう側ー」では、地域ゆかりの写真家・木之下晃、中村悟郎を特集、第3期収蔵作品展「美意識を生み出すもの」では、3人の地域ゆかりの作家・藤森照信（建築）、小川天香（漫絵）、伊藤彰敏（陶磁）を特集、第4期収蔵作品展「アートに恋する」では様々なジャンルの作品を展示しました。また、夏に開催した企画展「松樹路人展 終わりなき旅」では、東京と蓼科を制作拠点とし現代日本の洋画壇を代表する画家・松樹路人の作品を展示了しました。

これらの展覧会では、対話型鑑賞という手法を用いて「みんなで話そう作品鑑賞会」「親子のための作品鑑賞会」を開催しました。対話型鑑賞とは「美術の知識だけに頼らず、見る人同士の対話を通して、作品への理解を深めていくた



▲小学校の学級単位で行なった松樹路人展の対話型鑑賞会

めの鑑賞方法」です。キーワードは「よく見て、感じて、考えて、話して、聞く」。鑑賞会では、参加者の皆さんのが案内役を茅野市美術館サポーター「NPO法人サポートC 美遊com.」のメンバーと茅野市美術館学芸員が務め、参加者全員でじっくり時間をかけて一つの作品をみつめます。案内役は「この絵の中で何が起こっているのでしょうか？何か気付いたことはありますか？」などの質問を参加者に投げかけ、参加者のコメントに対し、さらに「どこを見てそう思ったのですか？どうしてそう思いましたか？」と問いかけ、案内役と参加者同士の言葉のキャッチボールが続きます。参加者からは「色々な人の、色々な考えを聞けて、作品の見方が広がった」などの感想が聞かれました。一人で見るよりも誰かと一緒に対話しながら鑑賞することで、作品から多くを発見し、また作品から受ける思いや感動を深めていくことができるようです。なお、小学生の学級単位を対象とした対話型鑑賞会も随時、開催しました。

その他にも、親子のための美術教室「家族を描こう」（講師：松樹路人）、作家によるギャラリートーク、木之下晃×中村悟郎トークセッション「写真とは」、講座「神長官守矢史料館が生まれるまで」（講師：藤森照信）、藤森照信が案内する神長官守矢史料館&高過庵&空飛ぶ泥舟 見学会、茅野市美術館アート×コミュニケーション#3 プレイイベント「小さなアートプロジェクト実践講座」（講師：藤浩志）、音風景ワークショップ、学芸員による作品解説会などを開催しました。来年度以降も、様々な角度から対話を通して地域の素晴らしさをみつめていきたいと思います。

茅野市尖石縄文検定 第1回（中級） 第2回（初級）を開催しました



▲尖石縄文検定初級の館内解説風景

尖石縄文考古館では、縄文プロジェクト構想に位置づいている「市民総学芸員」の一環として、昨年に引き続き縄文検定を実施しました。

本年度の茅野市尖石縄文検定第1回中級編は、昨年度「尖石縄文検定（初級）」を受験し、尖石縄文特別学芸員に認定された方々を対象に、9月17日（土）に開催され、29名の特別学芸員の方々が縄文修士号獲得のためにがんばりました。

今回の中級検定問題は、初級編より難易度を高め専門的な内容を盛り込みました。特に、事前学習で取り組んだ、市内の国史跡上之段遺跡や、国史跡駒形遺跡に関する問題、考古館の展示遺物の細かな文様部分に関する問題など実際に史跡や考古館の展示物を観察することで得られた力を試すものとなりました。受験生の方々は、事前学習のために何回も考古館に足を運び学習を深めると共に、学芸員に質問する等積極的に学習する姿が見受けられました。

合格された方は「尖石縄文修士」としての認定書を尖石縄文まつり'11の開会セレモニーにおいて授与され、今後行われる上級編受験の切符を手にしました。

また、昨年度に引き続き、より多くの方々に縄文について知り知識を深めていただけるよう、第2回目の尖石縄文検定初級編を平成24年2月12日に実施しました。昨年度同様初級編にふさわしく縄文時代の基礎的な内容について、



▲尖石縄文検定中級の受験風景

優秀な成績をおさめた初級認定者には「尖石縄文特別学芸員証」を授与し、特別学芸員として活躍してもらうことも考えております。

今後も尖石縄文検定初級編・中級編・上級編と継続し「市民総学芸員」を目指し、茅野市の縄文文化を発信していくべく人材の育成に努めていきたいと考えています。

新井下遺跡で遺跡見学会を開催しました

茅野市湖東新井下地籍に所在する新井下遺跡で配水地建設が計画され、この事業に伴い記録保存を前提とした発掘調査を行いました。新井下遺跡は古くから縄文時代中期の大規模な集落であることが知られており、平成5年には湖東保育園建設に伴い発掘調査が行われ、38軒の縄文時代中期の竪穴住居址、2軒の平安時代竪穴住居址が発見されています。今回の発掘調査は8月23日から10月24日まで行ない、縄文時代中期竪穴住居址、平安時代竪穴住居址、土坑を発見し、遺跡の南の広がりを把握することができました。新井下遺跡の西側範囲は北部中学から北側範囲は湖

東保育園周辺と、大規模な範囲にわたる遺跡であることを改めて確認することができました。

この成果を地域住民や市民に公開するため、9月23日に見学会を行いました。地域の方々や尖石縄文特別学芸員の方々に参加していただき、子供を対象とした遺物の取り上げ体験を行うなど、残されている文化財に触れる貴重な機会となりました。



▲新井下遺跡見学会の風景

駒形遺跡の確認調査と調査成果

茅野市米沢北大塩にある駒形遺跡は、霧ヶ峰南麓に位置する縄文時代の集落遺跡で、古くから黒曜石の石鎌が沢山拾える遺跡として知られていました。平成10年に黒曜石石器の製作や搬出に関わった遺跡と評価され、約2,7000m²が国史跡に指定され保存されています。

昭和36年以降10数回にわたる発掘調査が行われ、縄文時代前期から後期まで営まれた集落遺跡であることが確認されていましたが、その範囲等については不明確な部分がありました。そこで、史跡西側の隣接地を対象に集落の範囲と地形を把握することを目的に確認調査を行い、駒形遺跡西側集落の限界と地形の成り立ちを知る手掛かりを得る

ことができました。確認調査では縄文時代竪穴住居址、平安時代竪穴住居址、土坑等を確認し、12月18日現地見学会を開催し、地域や市外等から約60人が集まりました。

また、3月3日には平成23年度駒形遺跡確認調査報告会を米沢地区コミュニティセンターで開催し、今回の調査成果や過去の研究を踏まえ駒形遺跡の重要性をアピールしました。



▲駒形遺跡確認調査の様子

■守矢史料館

守矢真幸の書

平成22年に第77代守矢家当主 守矢真幸（もりやまさち 1883-1965）の書を寄贈・寄託していただき、公開のために、企画展「守矢真幸の書」を平成23年4月16日(土)～6月19日(日)まで開催しました。

守矢真幸は、明治16年(1883)に最後の神長官である守矢実顕（さねあき 1825-1902）の子として生まれ、明治33年(1900)に兄である実久（さねひさ 1850-1900）の死去に伴って守矢家の当主となりました。県内各地の中学校（現在の中学校・高校）の教員を勤めていましたが、大正15年(1926)に諏訪大社の神官となり、昭和21年(1946)には宮司となっています。

守矢真幸は、諏訪大社在職時に、長野県内各地の神社の幟旗や書に揮毫しており、現在でも各地に残されています。また、守矢実顕



・実久の書も残されており、▲松本市入山辺の幟旗に揮毫する守矢真幸

両氏の書も併せて展示しました。

幟旗については、一部しか把握できていませんが、諏訪地方の他に、東筑摩・上伊那・下伊那・更埴地方にもあることがわかりました。

今後も、守矢家に関わる人物と書などについて調査を行っていきますが、各所に眠っている書などがありましたら、ご一報いただければ幸いです。



▲守矢真幸筆「乃木希典詩」

日本列島の誕生と災害



平成23年3月11日の東日本大震災は、地震と津波、さらに福島第1原子力発電所の事故とも重なり、今でも多くの方々が不自由な生活を強いられています。その後、翌日の栄村の地震を始め、日本各地で地震が頻発しています。長野県内では、他にも6月30日に松本市で震度5強の地震があった他、小さな地震は数え切れません。

日本列島が地球の地殻変動や火山活動によって形成されたものであり、今もその活動は継続途であること、現在の大地や見慣れた風景が完成形でないことを、改めて認識したところです。

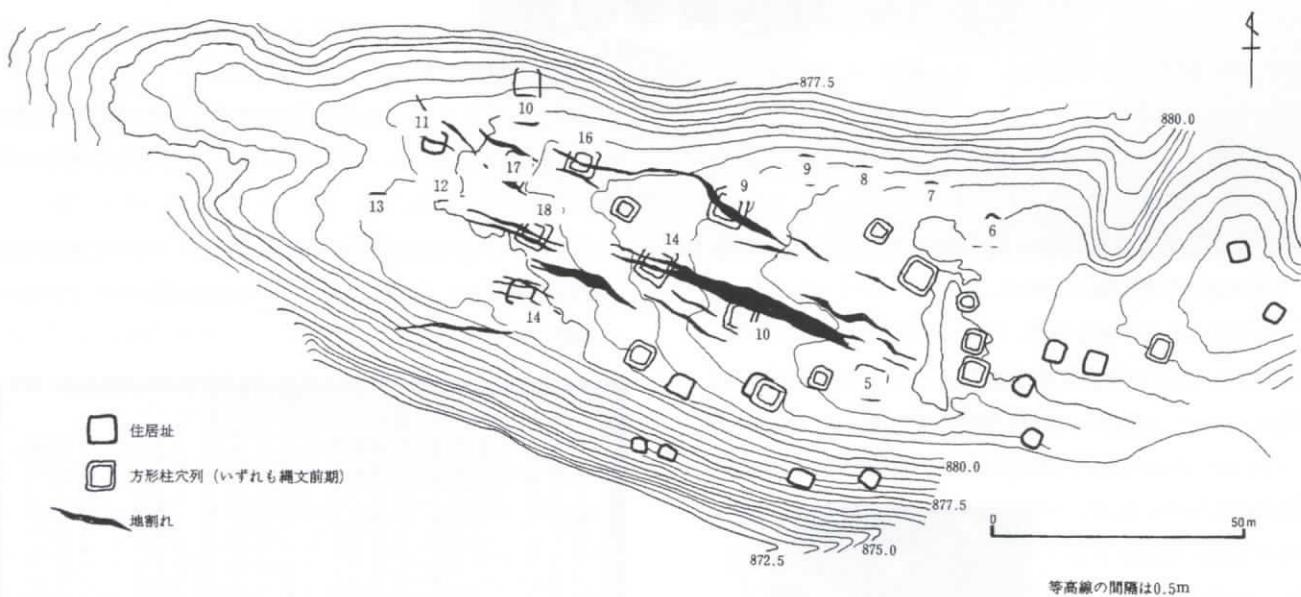
博物館では、平成23年4月23日から6月26日まで、東日本大震災に被災地で活動した緊急消防救援隊が現地で撮影した写真を展示し、その惨状を伝えました。また、茅野市防災対策室より非常持ち出しグッズを借り受け、日ごろどのようなものを備えておくことが必要かという展示を行いました。

同時に「茅野市の遺跡に見る地震の痕跡」として、茅野市教育委員会が平成2年から3年にかけて茅野市金沢木舟の阿久尻遺跡の遺跡発掘調査を実施した際に発見された地震による地割れの痕跡の写真などを展示しました。

日本列島の誕生から今日まで、さまざまに形を変えてきた大地には、その痕跡が刻まれています。そして、日本列島に人が暮らし始め、その生活に影響を及ぼしたとき、それを初めて災害と認識します。やがて文字を持つようになった人々はそれを記録してきました。

自然災害には地震のほか、台風による風水害、豪雨による河川の氾濫や土砂災害、飢饉や旱魃など、さまざまなものがあります。人々はそれらの災害をさまざまな知恵と工夫によって乗り越えてきました。

平成24年度は、諫訪地方を中心とした記録に残る、あるいは大地に刻まれた痕跡から災害の歴史を紹介します。



茅野市の博物館・文化財だより **八ヶ岳通信 No.30** 発行年月日 平成24年3月31日

編集・発行 茅野市美術館	〒391-0002	茅野市塚原1-1-1	TEL (0266) 82-8222
茅野市尖石縄文考古館	〒391-0213	茅野市豊平4734-132	TEL (0266) 76-2270
茅野市神長官守矢史料館	〒391-0013	茅野市宮川1389番地の1	TEL (0266) 73-7567
茅野市八ヶ岳総合博物館	〒391-0213	茅野市豊平6983番地	TEL (0266) 73-0300